

第5学年家庭科「いつもすっきりビフォーアフター ～整理・整とんで快適に～」

学習指導者 阿部 聡子

散らかった部屋と片付いた部屋の写真を比較し「整理・整頓するよさ」に気付き、「自分も片付けたい」という意欲を高め、「自分や家族が使う場所をすっきり整理・整頓し続けられるようになろう」という題材の目標を設定しました。持続することで、無駄なくすっきり整理・整頓するために、必要なコツを家族へのインタビューや道具箱の整理・整頓から見付けていきました。

道具箱を片付けて、整理・整頓のコツを見付けよう

【見通し】

題材計画表を使って、前時までの学習を振り返り、自分たちが決めた場所を整理・整頓するために、本時は「道具箱を片付けながら、整理・整頓するコツを見付けよう」という学習課題を設定しました。その後、整理・整頓の意味と「分ける」「まとめる」「決める」の3観点から整理・整頓することを確認しました。そして、家族に聞いてきたコツや教科書、班の友達に聞くことを手がかりして、整理・整頓することを確認したり、活動時間を設定したりして解決の見通しをもちました。



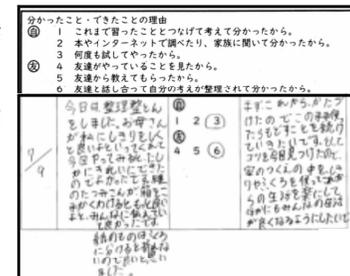
【行動】

まず、道具箱の整理・整頓を3観点を基に行いました。次に班の友達の道具箱を見てコツを聞き、整頓のコツのよさを取り入れていきました。その際「すっきりコーナー」にある仕切りや袋等を自由に使って、自分にとって使いやすくなるかを試しながら、整頓していきました。そして、「まとめる」時は、種類ごとに箱に入れる等のコツを見付けていきました。また、自分にとって使いやすい状態を保つためには、「元の位置に戻す」ことも必要なことに気付きました。



【振り返り】

「分かった・できたことその理由」「生活に生かしたいこと」について振り返りました。「分かった・できたことその理由」の例を示した振り返りシートを使うことで、「友達からアドバイスをもらったからよく使う物は手前に置いた」「次は、見つけたコツを使って勉強机を片付けたい」など具体的に自分がなぜ整理・整頓ができたのかを表出し、家庭生活につながることや協働のよさを感じていました。



成果と課題

○班の友達と取り組みやすい環境や「すっきりコーナー」を設定したことで、自然にコツを教え合ったり、様々なコツを試したりする姿が見られた。振り返りシートに例を示したことで、できた理由を子供自身が気付くことができた。
 ▲道具箱の問題点を最初に明らかにしておき、それがどのように変容したのかを整頓後に表出させる必要があった。子供の意識の流れを大切にされた時間設定や交流方法、教師の効果的な声かけや価値付けが必要であった。